


●野菜の作業

種まき	定植 (植付け)	栽培のポイント																																															
<ul style="list-style-type: none"> ・ホウレンソウ ・コマツナ ・シュンギク ・ハクサイ ・ダイコン ・カブ ・ など <p>※秋バレイショの植付けは、標高500mの地帯で8月下旬になります。品種は、休眠の浅いデジマやニシユタカを利用します</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブロッコリー ・キャベツ ・ワケギ ・レタス など 	<p>○夏野菜の暑さ対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・敷きワラ、こまめな灌水などで土壌水分の急激な変化をさけましょう。 ・追肥を行い樹勢を維持します。 ・雨よけハウスなどでは、天井フィルムの上の遮光ネットや寒冷紗をかけて温度をさげます。(ただし、遮光率は20%以下とします。) <p>○主な秋まき野菜の作型と品種</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>播種期</th> <th>定植期</th> <th>主な品種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ハクサイ</td> <td>8月中旬まで</td> <td>9月中旬まで</td> <td>黄ごころ65</td> </tr> <tr> <td>キャベツ</td> <td>7月下旬まで</td> <td>8月中旬まで</td> <td>若峰、初秋</td> </tr> <tr> <td>ブロッコリー</td> <td>7月中旬まで</td> <td>8月上旬まで</td> <td>ピクセル</td> </tr> <tr> <td>レタス</td> <td>8月中旬まで</td> <td>9月上旬まで</td> <td>極早生シスコ</td> </tr> <tr> <td>チンゲンサイ</td> <td>9月上まで</td> <td>9月下旬まで</td> <td>青帝</td> </tr> <tr> <td>ホウレンソウ</td> <td>9月中旬まで</td> <td></td> <td>オーイ・ヨロイ</td> </tr> <tr> <td>コマツナ</td> <td>9月中旬まで</td> <td></td> <td>楽天</td> </tr> <tr> <td>ダイコン</td> <td>8月下旬まで</td> <td></td> <td>耐病総太り, YRくらま</td> </tr> <tr> <td>カブ</td> <td>8月下旬まで</td> <td></td> <td>耐病ひかり</td> </tr> <tr> <td>タマネギ</td> <td>9月上旬まで</td> <td></td> <td>OK黄、泉州黄色</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ホウレンソウ、コマツナはトシ、ハウス利用で更に遅まきできる。</p>				種類	播種期	定植期	主な品種	ハクサイ	8月中旬まで	9月中旬まで	黄ごころ65	キャベツ	7月下旬まで	8月中旬まで	若峰、初秋	ブロッコリー	7月中旬まで	8月上旬まで	ピクセル	レタス	8月中旬まで	9月上旬まで	極早生シスコ	チンゲンサイ	9月上まで	9月下旬まで	青帝	ホウレンソウ	9月中旬まで		オーイ・ヨロイ	コマツナ	9月中旬まで		楽天	ダイコン	8月下旬まで		耐病総太り, YRくらま	カブ	8月下旬まで		耐病ひかり	タマネギ	9月上旬まで		OK黄、泉州黄色
種類	播種期	定植期	主な品種																																														
ハクサイ	8月中旬まで	9月中旬まで	黄ごころ65																																														
キャベツ	7月下旬まで	8月中旬まで	若峰、初秋																																														
ブロッコリー	7月中旬まで	8月上旬まで	ピクセル																																														
レタス	8月中旬まで	9月上旬まで	極早生シスコ																																														
チンゲンサイ	9月上まで	9月下旬まで	青帝																																														
ホウレンソウ	9月中旬まで		オーイ・ヨロイ																																														
コマツナ	9月中旬まで		楽天																																														
ダイコン	8月下旬まで		耐病総太り, YRくらま																																														
カブ	8月下旬まで		耐病ひかり																																														
タマネギ	9月上旬まで		OK黄、泉州黄色																																														

○白いきれいな肌のダイコンを作るために

ダイコンは日本食にとってなくてはならない野菜であり、直売所でもベースとなる野菜のひとつです。そんな中、長年ダイコンを作っているが、なかなか「白いきれいな肌のダイコン」ができないが・・・というお話を聞きます。

症状により様々な原因は考えられますが、幾つかの原因が複雑に絡み合っている場合が多く、輪作や幾つかの対策を併用することが大切です。

症状のひとつ「横しま症」は、主根の表面に条状または帯状に褐色または黒色の変色を水平方向に生じる症状の総称で、軽く擦るとときえる軽微なものから変色の著しいものまで幅があり発症は地下部に限定されます。対策としては、連作を避け深耕や良質堆肥の施用などによる土づくり、湿害防止のための高うね栽培がポイントとなります。

次に「曲根」ですが、地上部と地下部曲根の2種類がありますが、主な原因は土壌の不良、特に硬い耕盤層であることが多く、深耕や良質堆肥の施用などによる土壌改良や適期の間引きによる正常葉の株を揃える等の管理がポイントとなります。

また、裂根は直根割、茎割、肩割、中割に分けられ、初期成育の不良による根部の組織老化が原因で間引きや適期のかん水により肥大初期の生育を安定させるような管理が大切となります。

岐根は、センチュウや害虫による幼根期の食害、石や土塊障害による側根の発生、堆肥や化学肥料の塊状施肥、幼食物期の中耕などの管理作業による断根などが原因であり、殺センチュウ剤・殺虫剤の使用、深耕や入念な砕土、肥料等の均一散布、中耕除草時の断根回避などが重要です。

なお、センチュウの中のキタネグサレセンチュウによる根部表面の被害は、生育中期～収穫期にかけ水泡状の小白斑(径は数ミリ)が発生し、その



中心が割れ黒く変色するためアバタ状になるもので品質を著しく落とします。

これに対しては、センチュウ密度を下げる必要があります。堆肥の施用不足も多発の原因とされていますが、野菜類の連作で密度が高まることから、マリーゴールドなどの対抗植物の栽培や必要に応じて土壌消毒を行いません。

また他にも様々な症状の障害等が見られますが、土壌の深耕、良質堆肥の施用、過剰施肥の回避、排水対策、輪作・適期の管理作業など、総合的に生育環境を整えることにより「白いきれいな肌のダイコン」づくりに努めていただきたいと思います。

●単肥を利用した追肥の方法

《追肥用肥料と施要量の考え方》

配合肥料による追肥は、チッソ成分量さえ考慮すれば、便利で使いやすい資材といえます。

例えば、BB追肥N30 20kgを使用している場合、成分表示は、チッソ：18、リン酸：4、カリ：8（単位：%）であり、窒素含有量：3.6kg/20kgとなり、追肥1kgをやりたい場合は5.6kgのBB追肥N30が必要となります。

これに対して、単肥の「硫安」を使つての窒素補給をする場合は、硫安中のチッソ含有量は、21%（含有量は4.2kg/20kg）であり、チッソを1kg追肥するには、4.8kgの硫安を施用します。

また、「尿素」の場合のチッソ含有量は、46%（含有量9.2kg/20kg）であり同様の場合は2.2kgの尿素施用で済む計算となります。

ちなみに経費については、BB追肥N30 20kgは2,200円程であることから、チッソ成分だけを考えるとチッソ1kg当たり610円程の金額に換算されます。（当然リン酸やカリが含まれているので高額となります。）

一方、単肥の「硫安」20kgは1,100円程であり、チッソ1kg当たり260円程に換算されます。

また、「尿素」（細粒）20kgでは2,200円程であることから1kg当たり240円程になります。

なお、近年リン酸や敷き藁の多用等によりカリについては必要量は充足しており、追肥はチッソ成分のみで足りると思われるほ場も多く見られることから、昨今の肥料の高騰等を考えた場合「単肥」を上手に使つて、肥料削減や少しでも経費の節約が図られるよう工夫してはいかがでしょうか。



農業豆知識

《苗の定植時に植え穴処理剤等の利用による効率的な害虫防除》

野菜苗の定植後は、アブラムシ類、アザミウマ類、ハモグリバエ等の害虫被害により、生育不良のほか、ウイルス感染等により以後の安定生産に大きな支障を来す場合があります。

一般的には、定植直後に農薬散布を行う場合が多いと思われませんが、定植時や種時、育苗期後半等に使用できる薬剤の利用により、効率的・省力的に防除を行うことが可能となります。

これらの薬剤（細粒剤）は植え穴や播き溝への土壌混和や定植時に株元への土壌混和处理、育苗後半に苗の株元への散布、セル成型苗等では移植時にトレイに薬剤を散布したうえで定植するといった方法で、植物体に薬剤を吸収させることにより一定期間防除効果をあげる方法です。

薬剤は、殺虫剤が多いですが殺菌剤もありますので、品目や対象害虫等を考慮し、薬剤の使用や農薬選定をお願いします。

なお、使用方法は薬剤ごとの使用方法を遵守するとともに、次の「留意点」に注意してください。

《留意点》

- ・健全な苗づくりをし、軟弱徒長苗には使用しない。
- ・薬剤の使用は葉が乾いている時とし、施用後は葉に付いた薬剤は払い落とす。
- ・薬害回避のため、施用量は厳守する。
（1株当たり0.5～2g施用といった剤が多いため撒きすぎないように注意。）
- ・当然ですが、ダイコン等に使用した場合、間引き菜、つまみ菜としての使用は出来ませんので十分注意してください。
- ・残効期間は、品目等により異なりますので使用方法を参考にするとともに観察により次の防除が遅れないように注意してください。

あさつゆ連絡先 電話:FAX 41-1062

技術事項作成協力：上小農業改良普及センター
地域生活係 中澤普及員（TEL25-7156）